

第3学期1週目の様子から

3学期が始まって1週間が過ぎました。水曜日には第2回実力テストが行われ、一人一人が頑張っていることが出来ました。木曜日からは授業も6校時行われ、部活動も再開しました。デイリーライフを読むと、少しずつですが普通の生活に戻ってきているように思います。

実力テストの問題は回収してありますが、来週には返却できると思います。問題をもう一度見直し、復習を行ってほしいと思います。また、冬休みに宿題となっていたスタプロの採点も行っています。来週からスタプロも開始されますので、单元一つ一つをしっかりと見直していきましょう。

3年生は今週から私立高校の受験が始まり、市内の私立高校入試も来週から本格的に始まります。1年後の自分たちを想像しながら、3学期を有意義に過ごしていきたいと思います。

雪かきから思うこと

今週火曜日は低気圧が非常に発達し、郡山でも雪が降りました。その雪の朝、学校までの道を歩いてきたり、学校の敷地内を歩いたりした人は感じたと思いますが、多くの場所で雪かきがしてありました。

この雪かきについて、思い出すことがあるので下に引用してみます。

哲学者・内田樹氏は、『下流志向』の中で、「労働の本質は雪かきにある」と言っている。どういうことかと言うと、まず雪かきをする人は、雪かきをしているところをたくさんの人から目撃されることはない。人々が仕事に行くときにはもう既に雪かきは終わっている。

そのきれいに雪かきされた道を、みんな当たり前のように歩いて出勤する。中には「俺が起きる前に誰かが雪かきしてくれたんだ」なんて思いながら職場に急ぐ人もいるかもしれないが、誰がしたのかも分からないので、その感謝の気持ちが言葉になることはない。

しかし、誰かがそれをしなかったら、凍りついた雪に足を滑らせて転んだり、ケガをしたりする。つまり、雪かきとは誰かを喜ばすためにするのではなく、その道を通る人たちがいつものように、普通に歩いて行けるように事前にやっておくのだ。誰も見ていないし、誰からも賞賛されることはない。それでも、その地味な作業を誰かがやらなければならないし、そういうことをする人がいることで、実は社会全体はうまく回っているのだ。(みやざき中央新聞社説より抜粋)



仕事とは、「誰かがやらなければいけないこと」だけれど「誰も自分の仕事だとは思っていないこと」を率先してできるかどうか、という面をもっているのだと思います。別に雪かきをしなさいという意味ではありません。普段の生活の中で、ごみを拾ったり、倒れていたものを戻したり、気づいたときにスイッチを切ったりと、小さなことの積み重ねが、大きなトラブルを防ぐのだと思います。

雪の朝、道が歩きやすい状態であれば、それは誰かが雪をどかしてくれたということです。そういうことにも気づける気持ちをもちたいと思います。

感染防止に最大の注意を

残念ながら先週から今週にかけて、県内の新型コロナ感染者が非常に増えてきています。オミクロン株の市中感染も確認されました。今まで通りの対策を徹底していきたいと思います。